



研究所だより



2021. 3. 8

No.4

脳を鍛え，心を育む

中土佐検定



卒業式を控え、あわただしい毎日をお過ごしのことと存じます。日頃は研究所の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。本年度は新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でした。密を避けるために子どもたちの成長には欠かせない様々な行事が縮小や中止となり、どこでもマスクやアルコール消毒は必須の日常でした。先日の新聞に「今日は何回聞いたかな？コロナという言葉、それを数えてみた」という内容の児童の詩がありました。思わず笑ってしまいましたが、子どもたちなりに不安や恐怖があったのでしょうか。そんな中、中土佐検定が予定通り、実施できましたことは何ととっても小中学校の教職員の皆様の「子どもたちの学力向上への熱心な取り組み」があったからだと心より感謝申し上げます。また、この頃は町民の皆様にも少しずつ、中土佐検定が脳科学に基づいた中土佐町独自の学力向上の取り組みだということが認知され、期待されているところです。来年度におきましても、研究所の取り組みにご支援・ご協力をお願いいたします。

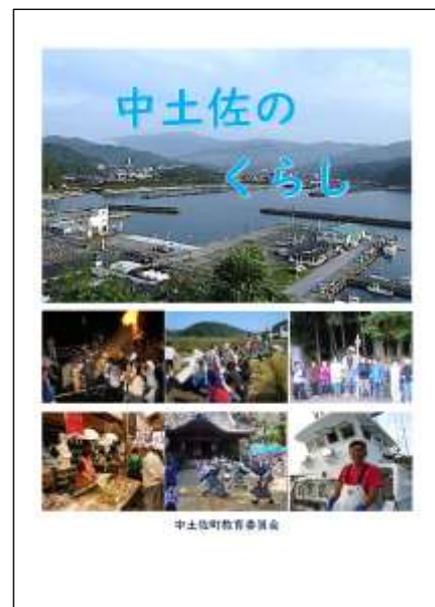
中土佐町教育研究所
所長 野村 泰子

目次

- はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 本年度の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
- 授業づくりに関する研究・おわりに・・・・・・・・P3～P4

本年度の主な取り組みの重点

- ① 小中学校中土佐検定の取り組み
 - 算数，数学，英語検定の試験（年 3 回）
 - 漢字検定試験（年 2 回・中学校のみ）
 - 結果分析（間違いランキング作成）
 - 検定取り組み支援（加力・個別指導）
 - 算数テキスト改訂版作成（令和 3 年 4 月発行予定）
 - 数学，英語テキスト改訂版作成（令和 4 年 4 月発行予定）
- ② 小学校社会科副読本の編集・評価問題案作成
- ③ 算数，数学科における主体的・対話的な授業づくりの研究，
小学校から中学校へのスムーズな接続についての授業づくり
- ④ 各種学力調査の結果分析と中土佐検定の関連調査
- ⑤ その他
 - 情報発信（研究所だよりの発行・広報の活用）
 - 研究所間の交流
 - 研究授業への参加や学校訪問



社会科副読本表紙

本年度は中土佐検定の取り組みのほかに、「小学校社会科副読本の編集」「算数テキストの作成」を行いました。副読本の編集には大変な時間を費やしましたが、体裁を整えたりすることを事務支援の方にお手伝いいただき、2月末、完了し、現在印刷中です。来年より、算数テキストと同様に使っていただくことになります。



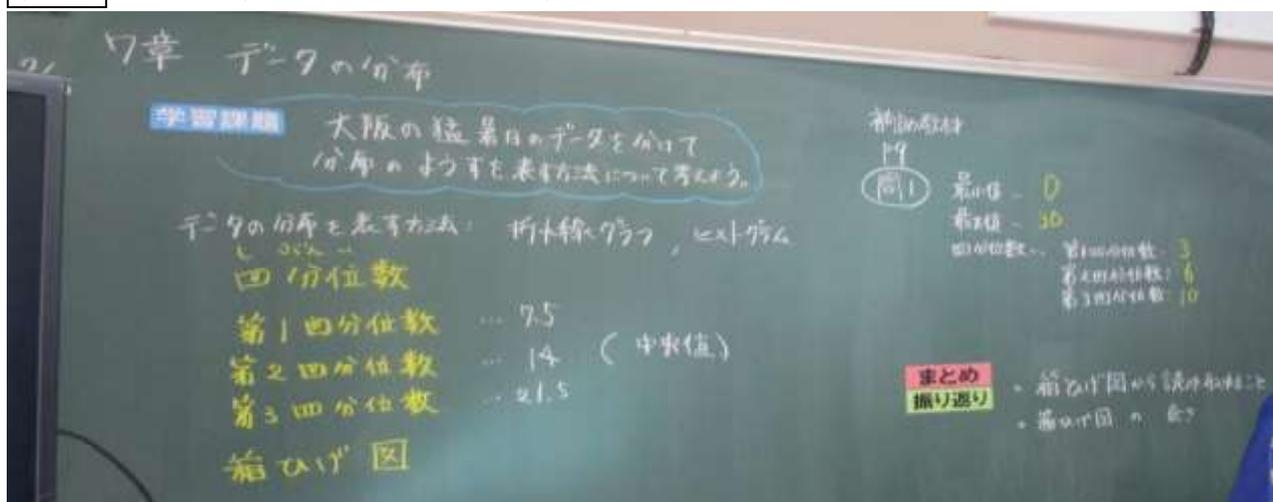
5年生の6級から4級の内容は右のとおりです。

5年	6級	分数をくわしく調べよう…分数の表し方，たし算・ひき算 （4年下P40～P52） 小数のかけ算とわり算を考えよう…商の表し方（4年下P82～P103） 広さの表し方…a，ha，km ² （4年下P62～P65）
	5級	整数と小数のしくみをまとめよう…（5年上P8～P15） 直方体と立方体のかさの表し方を考えよう…mL，L，m ³ ，KL（5年上P16～P31） かけ算・わり算の世界を広げよう…商をがい数で表す（5年上P40～P63）
	4級	整数の性質を調べよう…公倍数，公約数など（5年上P96～109） 分数と小数，整数の関係を調べよう…（5年上P110～P119） 分数のたし算，ひき算…（5年下P2～P18） 比べ方を考えよう…速さ（5年下P28～P42） 比べ方を考えよう…割合，百分率（5年下P66～P78）

授業づくりに関する研究【中学校2年数学 データの分布】について

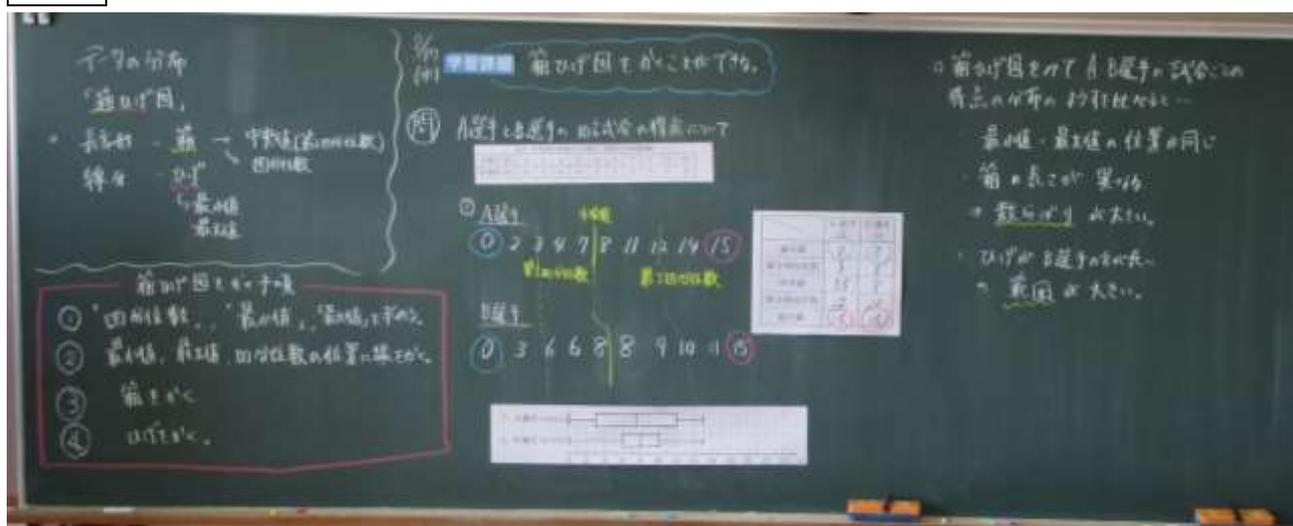
中学校では2021年度から新学習指導要領となりますが、数学科では移行措置として既に指導が始まっている単元があります。その単元【データの分布】の指導方法について、大野見中学校の中尾教諭、橋田教諭にご協力いただき、研究をしました。その内容を一部、紹介していきます。

第1時 目標：箱ひげ図について理解する



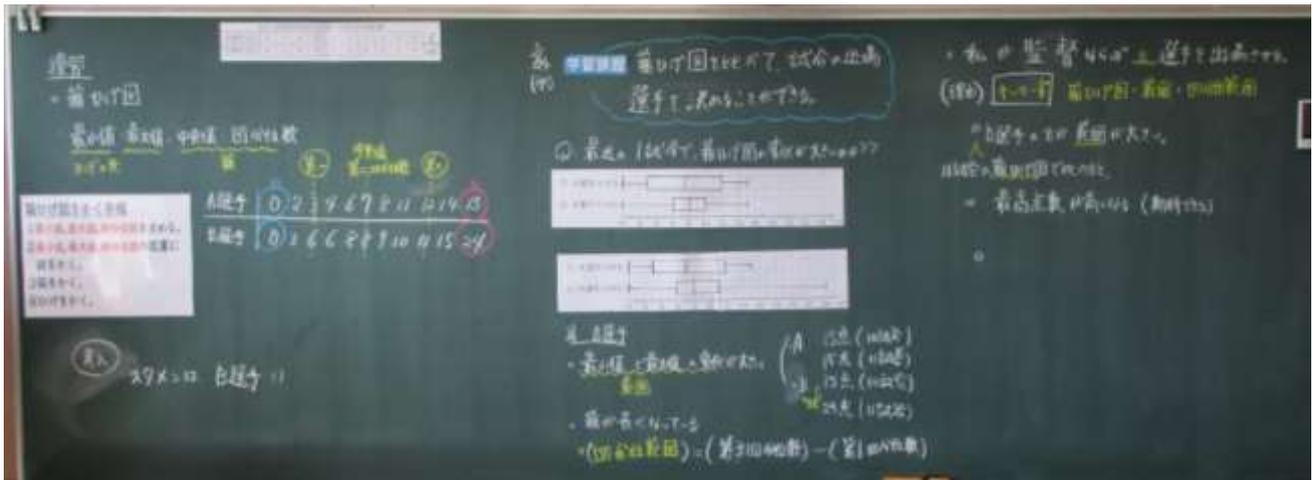
内容：日本の各地域で暑いところはどこか、社会科と関連付けて授業が行われました。現中2は小学校で学習していないドットプロットをもとにして、箱ひげ図がどのようなものか知ることができました。

第2時 目標：箱ひげ図を書くことができる



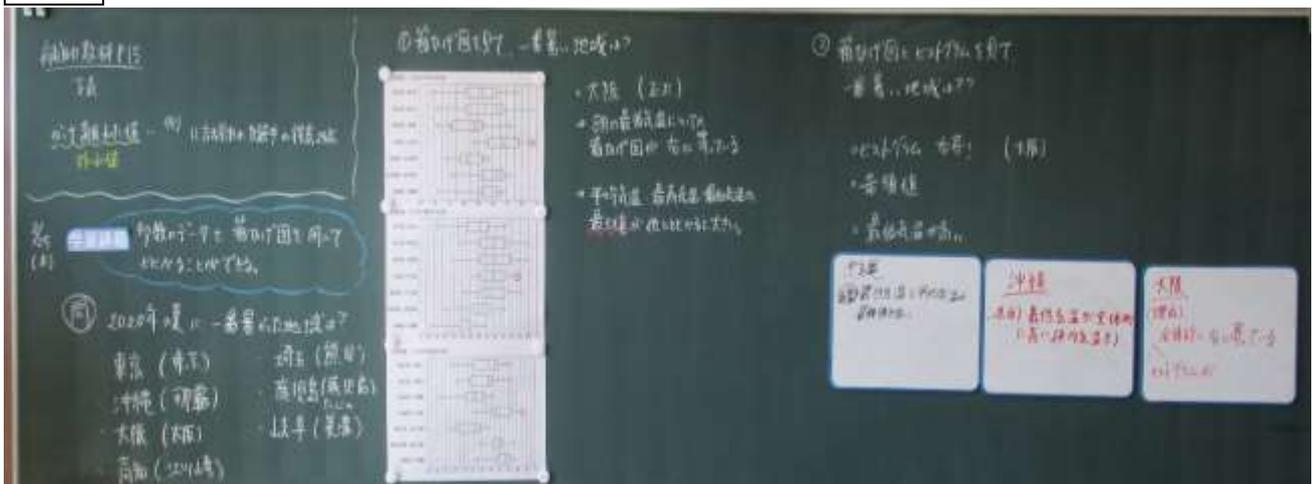
内容：2人のバスケットボール選手のデータをもとに、箱ひげ図を書く授業でした。新出語句である「第1四分位数」や「第3四分位数」の求め方に苦勞する場面はありましたが、ワークシートの手順に沿って、書き上げることができました。

第3時 目標：箱ひげ図を活用して問題を解決する



内容：前時で書いた箱ひげ図を用いて、「どちらの選手を試合のレギュラーにするか」を考えました。「箱の大きさ」や「ひげの長さ」に着目してそれぞれの選手の特徴を捉えて、出場選手を決めました。

第4時 目標：箱ひげ図とヒストグラムを活用して問題を解決する



内容：第1時で考えた日本の地域で暑いところはどこか、という問題を箱ひげ図とヒストグラムを組み合わせて考えました。8月の平均気温・最高気温・最低気温の3つのデータが示され、この資料なら大阪ではないか、この資料なら沖縄ではないか、などデータを活用して多様な意見が出されました。

この領域の学習は、いくつかある数学科の改訂の目玉の一つとなっています。これまで高校で取り上げていた「箱ひげ図」が中学校へ、また、中学校で取り上げていた「代表値」が小学校へ移行されました。小、中ともに新しい学びが始まりましたので、この単元の指導方法について今後も研究を進めていきたいと思ひます。

町内の先生方には、一年間、様々な学校・学年・教科の授業を参観させていただきことに感謝しております。次年度もどうぞよろしくお願い致します。 研究員 森将人